

「世界最大の病院船に、被災地から医療を志す子ども達を招待したい」

見学実施日：2018 年 6 月 16 日

見学実施場所：東京都大井水産物埠頭

見学対象：米海軍病院船U S N Sマーシー

クラウドファンディング事業（中高生：全 22 名）参加者感想文



主催：公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル
クラウド・ファウンディング公募委託：Ready for
<https://readyfor.jp/projects/MercyJapan2018>
協力：海洋国日本の災害医療の未来を考える議員連盟

参加者（全 22 名）感想文＋参加《志望動機》目次：

三品花奈・三品千花	5.
竹内更紗・高信亜侑美	6.
三村和輝・谷地 星	7.
園元優菜・小川 凜	8.
鈴木大翔	9.
福井竜也・関 海斗	10.
大崎愛実・稲見 梓	11.
荒籾ひかり・初見喜樹	12.
東田桃果・千葉星奈	13.
和田凜々子	14.
村上マクシミリアン・菅野大樹	15.
柏木夏海・和田七華	16.

【米海軍病院船 USNS マーシー視察ツアー記録】 撮影：Katsumi Hirabayashi



Mer_hira_561s.jpg



Mer_hira_562s.jpg



Mer_hira_563s.jpg



Mer_hira_564s.jpg



Mer_hira_565s.jpg



Mer_hira_566s.jpg



Mer_hira_567s.jpg



Mer_hira_568s.jpg



Mer_hira_569s.jpg



Mer_hira_570s.jpg



Mer_hira_571s.jpg



Mer_hira_572s.jpg



Mer_hira_573s.jpg



Mer_hira_574s.jpg



Mer_hira_575s.jpg



Mer_hira_576s.jpg



Mer_hira_577s.jpg



Mer_hira_578s.jpg



Mer_hira_579s.jpg



Mer_hira_580s.jpg



Mer_hira_581s.jpg



Mer_hira_582s.jpg



Mer_hira_583s.jpg



Mer_hira_584s.jpg



Mer_hira_585s.jpg



Mer_hira_586s.jpg



Mer_hira_587s.jpg



Mer_hira_588s.jpg



Mer_hira_589s.jpg



Mer_hira_590s.jpg



Mer_hira_591s.jpg



Mer_hira_592s.jpg



Mer_hira_593s.jpg



Mer_hira_594s.jpg



Mer_hira_595s.jpg



Mer_hira_596s.jpg



Mer_hira_597s.jpg



Mer_hira_598s.jpg



Mer_hira_599s.jpg



Mer_hira_600s.jpg



Mer_hira_601s.jpg



Mer_hira_602s.jpg



Mer_hira_603s.jpg



Mer_hira_604s.jpg



Mer_hira_605s.jpg



Mer_hira_606s.jpg



Mer_hira_607s.jpg



Mer_hira_608s.jpg



Mer_hira_609s.jpg



Mer_hira_610s.jpg



Mer_hira_611s.jpg



Mer_hira_612s.jpg



Mer_hira_613s.jpg



Mer_hira_614s.jpg



Mer_hira_615s.jpg

【三品花奈】

私が米海軍病院船マーシー号を見学してみて、日本にも東日本大震災などの大災害があったときに、このマーシー号のような病院船があれば、少しでも多くの命を救えたかもしれないと思いました。過去のこともですが、これからこのような病院船があれば少しでも多くの命を救えると私は思いました。マーシー号に入る前に代表の方が言っていたことは、私がマーシー号に対して思ったことと、同じでした。マーシー号に入る時はビルのような大きさに驚いていました。また、中に入ってみると、本物の総合病院と同じくらいの設備がそろっていて、アメリカの医療はとても進んでいてすばらしい物だということをあらためて実感できました。私は今回の経験を通して学んだことは、アメリカの医療はとても進んでいて、病院船のなかはすべて英語でしたが、どの棚も分かりやすく整理されていて、すべての医療機器が清潔に保たれてあって、日本にもこのような大きな病院船をつくってほしいと思いました。このようなとても素敵で一生に一度しかない体験ができてすごくうれしかったです。このような機会をくださり、ありがとうございました。

《志望動機》

私は将来、看護師さんやお医者さんになりたいと思っています。目指そうと思った理由は、東日本大震災のときにたくさんの方々が亡くなってしまいました。その中には、あともう少し早ければ助かった人がたくさんいて少しだけだったのに命を落とした人がたくさんいたのだらうなど私は今でも思っています。なので、私は 1 人でも人の命を守るような、とりとめることのできるような看護師さん、お医者さんになりたいです。

【三品奈千花】

私が米海軍病院船マーシー号を見学しての感想は、日本にもこれぐらいの病院船があればいいのになあと、思いました。日本にも病院船があれば、災害のときに役に立つからです。マーシー号みたいにベッドがたくさんあれば、つらそうにしている人をすぐにベッドに寝せることができるからです。そうしたら、一人でも多くの人を救えると思いました。

私が米海軍病院船マーシー号を見学しておどろいたことは、ベッドがたくさんあるところです、どこを歩いても、ベッドだらけなので、寝ている人がくるしそうにしていたら、すぐ気付けるからです。そして何人か助かるかもしれないからです。私は将来看護師になりたいと思っているので、これからたくさん勉強していい成績をとって、看護師になれるようにがんばりたいです。このようなきちょうな経験をさせていただき、ありがとうございました。

《志望動機》

私は看護師になりたいと思っています。理由は、東日本大震災のときにたくさんの人が病院にはこばれて、入院や手術をしました。その中でも助からなかった人がたくさんいます。なので、私は 1 人でも多くの人を助けたいと思って、看護師さんになりたいと思いました。

【竹内更沙】

砂田先生、先日はマーシー号の見学をさせて頂きまして大変ありがとうございました。

私は見学に参加するまで「病院船」という船があることを知りませんでした。私の住む青森県も東日本大震災で大変な被害を受けました。船内の見学をしながら、あの時に日本にもマーシー号のような船があったら、震災の時の被害ももう少し抑えることができたのではないだろうかと思いました。

私は現在、学校で災害看護について研究をしています。災害時には精神的看護だけではなく、停電時に十分に医療を受けるための設備も必要だと感じていたので、病院船の導入により十分な医療を受けることが可能になるのではないかと感じました。

マーシー号の見学をしたことで看護の道を志したいという気持ちがより一層強くなりました。日本の医療を支える一員になれるよう頑張りたいと思います。とても良い体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

《志望動機》

私は看護師を目指しています。きっかけは、東日本大震災の被災地の報道でした。救護所の被災者の皆さんの恐怖と絶望、つのる不安やこころの痛みが伝わってきて、すぐにでも飛んでいき、自分も何か手伝いたいと思いました。私に今できることは、一生懸命に勉強をして看護師の資格を取得し、看護従事者になることです。そして、初めて人を支えることができると考えています。ぜひ、米国病院船を見学させていただきたく、希望します。

【高信亜侑美】

私がマーシー号を最初に見た時に感じた事は、大きいという事です。

全長は約二七二メートルで、船内は手術室や集中治療室などが備えてありました。

マーシー号の船内には治療の為の様々な設備がありましたが、私は数えきれないほどの多くのベッドが特に印象的でした。

この船が多くを命を救っているということを改めて感じ、本当に感動しました。

東日本大震災で大きな被害を受け、「あの時、病院船が東北に向かっていれば…」という、後悔をしないようにするためには、

日本にもマーシー号のような病院船を設けるべきだと考えます。

また、病院船によって日本の医療が発展する可能性もあると考えます。

最後に、またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思っています。そして、自分の医療に対する知識を高めたいと考えています。

《志望動機》

私は、現在中学 3 年生です。中学生になり体調を崩し検査のために入院した経験があります。一人の患者である私を医師、看護師、その他職員の皆さんでサポートしていただいた事から医療に関心を持ち、福島県教育委員会主催の医療体験セミナーに参加し、医療の分野が多岐にわたっていることを知りました。医療はチームだと強く思います。私は薬剤師

を目指していますが患者を中心にした「チームの一員」に入りたいと思っています。

【三村和輝】

病院船マーシー号を実際に見て、まず思ったのは大きいということです。想像以上で驚かされました。中を見学してみると、病院としての設備が充実しているのにびっくりしました。船ということもあり、中の設備を整えるのは難しいのではないかと思っていたのですが、最先端の器具なども中にあり凄いと思いました。

また、病院としての働きだけでなく訪れた地域の手伝いなどにも貢献しているというのが素晴らしいと思いました。これらのことから総合的に考えて、砂田先生の考えるように、やはり日本には病院船が必要だと思いました。例えば自分の地域で災害が起きた時に、近場の青森港に病院船が来てくれたらどれだけ心強いのか。海洋国という特徴を長所にするためにも、ぜひ病院船を導入して欲しいです。

今回は滅多に出来ない、体験ができました。これも日本にマーシー号を呼んでくださった砂田先生をはじめとした皆さんのお陰です。本当にありがとうございました。この経験を糧にし、立派な医療関係者になれるよう努力していきます。

また、なにか機会がありましたら、よろしくお願いいたします。

《志望動機》

私の祖父は、数年前脳梗塞で倒れ、生死を彷徨いました。とても心配していたのですが、医師の対応が的確・丁寧なものだったのでしょう。後遺症も残らず健康を回復しました。医師は家族に「全力で頑張るので安心してください。」と言いました。この時、人の命を救うばかりでなく、家族にも適切に声を掛けられる医師になりたいと思うようになりました。今回の企画は、医療の最先端を体験するには最適と思い、応募しました。

【谷地 星】

私は今回の事業に参加させていただいて本当に良かったです。色々なものを見聞きし将来に繋がるものをたくさん見つけることができました。大きな船の中は普通の病院のようで驚きました。色々な国の軍隊が集まってアフリカやベトナム、離島へ向かい、病気の方やけがの手当てを行っていると言いました。このようにほかの国でありながらも、世界が一体となって協力して助け合うことが世界平和に繋がるのだと感じました。そして、私自身も医師になり世界の苦しんでいる人々を救いたいという気持ちがさらに大きくなりました。

最後に貴重な機会を設けてくださった関係者の方々、添乗員の方々、そしてマーシー号の方々に感謝の気持ちを送りたいです。本当にありがとうございました。この体験を生かし、今後の活動にも繋げていきたいと思っています。

《志望動機》

東日本大震災の時、父は救助隊として、母は看護師として被災者に寄り添っていました。私は兄と弟と3人で留守番しながら、両親が人のために働いている姿に誇りを持ちました。

いつか私も人のために働きたい。災害が発生した時に必要とされていて、私にできることは何かを考えた時、災害時に機動的活動できる医師になりたいと思いました。まだ、私の力は小さなものですが、大きな夢に向かって頑張りたいと思っています。

【園元優菜】

今回の見学や砂田先生のお話を聞いて、病院船は日本に必要不可欠なものだと思いました。

自然災害の多い海洋国・日本の国民の命を守るために必要なものは何だろうか。そう考えた時に、今までは防災や避難訓練などしか思い浮かびませんでした。しかし、今回の経験から、『災害医療』、『病院船』、これらが本当に必要なものだ、考えが大きく変わりました。災害が起きた時に、被災地に医療や物資を海上から届けられ、海上でも治療を受けられることは、日本の災害医療の大きな進歩につながると感じました。

世界的に見ても災害の多い国である日本がなぜ病院船を保有しないのか。とても疑問に思います。災害の多い日本で、人々の命を守る体制を築いていくにあたり、病院船は大きな要になっていくものに違いありません。今回の経験は、私の医療に対する意識を変え、医師になるという目標をより強く固められた、とても貴重で素晴らしいものでした。

このような貴重な経験ができる場を設けてくださり、本当にありがとうございました。

《志望動機》

私が医療を志す動機は以下の二点です。第一に、祖母を病気で亡くした事です。苦しむ祖母の姿を見て、私は自分の無力さを痛感すると同時に、同じく苦しむ人たちを自分の手で助けたいと決意したことを覚えています。第二に、人体には未知の領域が多数あり、その探求をすることで、人類の進歩に貢献できると考えたからです。世界には病気で苦しむ人が大勢います。私は医師になり、一人でも多くの人を救いたいと考えています。

【小川 凜】

私は「マーシー」を見学して、日本にもこのような病院船が必要だと思った。理由は、日本は海洋国であり、陸地で自然災害が起こり、救命ができる機関が利用できなくなった際、助かる命も助からなくなるかもしれないと考えたからだ。そんな時、マーシーのような病院船があれば多くの命を救うことができると思う。一方で、東日本大震災のような大きな津波が起こってしまった時、病院船は役目を果たすことができるのだろうか疑問に思う。津波の時はどう対応するのかをもっと知りたいと思った。また、マーシーは発展途上国に行き、病気や怪我の治療だけではなく、その土地に必要なものを作ったり人と触れ合ったりしていると聞き、医療以外の支援もしているのかと感激した。日本は、東日本大震災の時たくさんの国から支援を受けた。そのおかげで復興がとても進んだのだと思う。だから、次は日本が発展途上国への支援や災害時の支援をするべきだと思う。

今回の見学で全てを知ることができたわけではないが、病院船の活動や活躍を知ることができた。また、実際に見て説明を聞き、本当に陸地にある病院と変わらないし、むしろそ

れよりも大きくて驚いた。日本に病院船ができたらどんなことがしたいか、や、船にはどんな人を乗せるのかというお話を砂田先生がおっしゃっていた。目標は2020年までに実現させることだともおっしゃっていた。明確な目標があるのであれば実現できると思う。砂田先生の2020年までに現実という目標をととても応援したい。そして、それが実現し、自分自身の災害支援ナースになりたいという夢も叶ったとき、何らかの形で病院船に関わりたと思った。以上の理由から、日本にも病院船が必要だと思う。

今回の見学のような貴重な経験をする機会をいただき本当に嬉しく思っています。このような機会を下さった全ての人に感謝の気持ちを忘れず、自分の夢の実現に向けて頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

《志望動機》

私は将来、災害支援ナースとして国内外で活躍したいと考えている。きっかけは、東日本大震災の被災地で活躍している災害支援ナースを見て、私も被害者に寄り添い助けになるような看護師になりたいと思ったことだ。また、入院していた総合病院で患者の立場で大規模災害訓練の様子を見たことで災害医療への関心が高まった。病院船は災害時でも病院の機能を果たすことができるということで総合病院との違いなどを実際に比較したいと思った。

【鈴木大翔】

今でもマーシーの大きさを目の当たりにしたときの気持ちは忘れられない。船であるのにも関わらず、日本の大型病院にも引けを取らない設備の多さには大変驚いた。短いながらもICUや、手術ロボットである「ダ・ヴィンチ」など様々な医療機器を見ることができ、とても貴重な経験になった。

しかし、何よりも驚いたのは、島国である日本が病院船のような海上の大型医療施設を所有していないということである。もしも、マーシーのような船を日本が所有していたら、東日本大震災の際にも一つの救援手段として有効だったのではないかと感じた。日本が様々な災害の多発する国だからこそ、陸だけでなく海における医療を発展させていくことが非常に重要だと感じた。

今回の見学で、米国の病院船や日本の医療設備の不十分な点について知り、考える機会を得ることができた。今後私のようにたくさんの人が見学することで、より多くの人が日本の医療体制に意見を持つことになると感じた。日本の医療がより発展していけば良いと思う。

《志望動機》

私は、幼い頃から体が病弱だったこともあり、病院にかかることが何度もありました。そして小学4年生の時に東日本大震災を経験しました。私自身が大きく被災しなかったものの、報道されている惨状を見てとても心が痛くなりました。そのような局面で、直接的に人を助けることのできる医師という仕事に強く憧れを抱き、今では、医師不足が顕著な私

たちの住む茨城県で、医師として働くことを強く志望しています。

【福井竜也】

病院船は必要であると感じました。なぜなら、病院船ならば、大量の薬や多くの専門職の方などの物資や人を一度に運ぶことができるからです。東日本大震災の時にヘリコプターで薬や人を運んでいたため、薬の種類が少なく、薬剤師の指示も現場で出せず、薬が大量廃棄になってしまったと伺いました。病院船であれば多くの物資を積むことができるため、どんな事態にも対応することが可能だとわかりました。この面で病院船は必要であると思います。一方、災害が起こった時、対応が遅くなってしまうのではないかと、という危惧も生まれました。災害が発生してから現場に着くまでに要する時間や、日本に多くある狭い川などには小さい船でしか行くことができないところが船の不利な点ではないかと感じました。今回の見学や説明を受けた内容から、私は病院船は必要であるという結論に至りました。

《志望動機》

私は怪我に苦しむ人を助け、その人が目標を達成する手伝いをする力になるため医療を志します。私はこれまで怪我が多く自分の思うようにスポーツができませんでした。その中で私の学校で講話をしていただいた整形外科医の方のお話を聞いて、医療に興味をより一層持ちました。さらに、サポートするという形で自分のできなかった事や知らなかった事を経験できる職業とも思い、怪我に苦しむ方と自分自身のために医療を志します。

【関 海斗】

世界最大規模の病院船マーシー号を短い時間ながらも見学でき、大変貴重な体験ができた。まず、東京湾でマーシー号を見て驚いたのは、圧倒的な大きさだ。自分の想像していたものよりもはるかに上回るスケールだった。病院船の中には、手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」が設置されていて、そこが船の中であることを忘れさせてしまうほど医療設備が充実していた。

現在日本には設備の整った病院船は存在していないらしい。東日本大震災をはじめ、最近では群馬、大阪と地震が後を絶たない。この見学を通して、やはり日本にも被災者の救護にあたるような病院船は必要だ感じた。また、日本の高度な医療を、マーシー号のような病院船を通して、世界に伝えることができたらいいいのではないかと思った。

《志望動機》

私には看護師の母がいます。そんな母が患者に医療処置を施す姿を見たり聞いたりして、医療現場に興味をもちはじめました。人の命を預かって行う仕事だけあって、大変厳しく、責任が伴うものです。しかし、少しでも患者の苦痛や負担をなくしてあげられる医療従事者となり、患者を笑顔にさせてあげたいのです。これからの高齢化社会といった、さらなる医療が必要となる社会に貢献ができる人に私はなりたいです。

【大崎愛実】

私は、今回のマーシー号の見学会を知るまで病院船のことを知りませんでした。病院船のことは分からないことばかりで、実際に見学するまでは具体的なイメージがありませんでした。ですが、見学してみると、船内にある広い病室、多くの医療機器を目にして、そこが船内であることを忘れてしまうような感覚を覚えました。

今回の見学会を通して、私は日本にも病院船があれば、災害が発生したときに、より多くの人に医療が行き届くようになると思いました。日本は他国に比べて自然災害が発生しやすい国土です。大災害が発生したときに陸上交通が使用できなくなることは、大きな障害になります。それに対して船は、針路を断たれることなく移動が可能です。日本の島国という特徴を船という手段を用いて活かすことができます。また、災害時の医療の供給が追いつかなくなる問題も解消されます。私は、病院船に救急車やヘリコプターを加えたら、互いを補完して良い医療を提供できると思います。見学会を通して災害医療に興味を持ちました。私が医療従事者になったときに、災害時にも活躍できるような人材になりたいです。

《志望動機》

私は今まで多くの人に支えられて生きてきました。私は医師として働くことで、今度は自分が少しでも多くの人を救えるような存在になりたいと思い、医療を志望しています。特に、私が研究医となって、いまだに解明されていない病気のメカニズムや治療法を研究していくことで、より多くの人々を救いたいです。私の研究が少しでも後世に残り、一人でも多くの人が救われるような存在になりたいと思ったのが医療を志望する動機です。

【稲見 梓】

今回マーシー号を見学して、災害医療の必要性を感じました。実際に見学する前は医療船は戦争で負傷した兵士を治療するための船だと思っていました。しかし、説明を聞いて発展途上国や被災した国々への医療の提供も行っていることを知りました。

「陸地の被害を海から救う」という考えは以前までの私にはなく、今回の見学は医療の多様性を実感させられるものでした。七年前に日本で発生した東日本大震災の際にも、陸地にある病院は津波の被害を受けたり停電で機械が使えなくなったりして十分な治療ができなかったことを覚えています。その時に日本に医療船があれば、より多くの命を救えたのではないかと思います。マーシー号の中には、日本の大病院にも匹敵する設備があり、高度な医療を海上でも行うことができるということを知りました。これは日本の災害医療の新たな可能性なのではないかと思います。地震大国であるからこそ、災害時の陸地以外からのアプローチ方法を考えるべきだと思いました。特に医療船は島国である日本こそ必要なものではないでしょうか。

今回の見学を通して、広い視野で問題を見ていくことの必要性を実感しました。この経験を今後の生活や、将来医療従事者になった時に活かしていきたいです。

《志望動機》

私は将来、外科医として働きたいと思っています。医師という道を志すことを決めたのは中学校 3 年生の夏です。医学部のある大学のオープンキャンパスに参加した時に、医師として青年海外協力隊で活動している卒業生の目の前の命に真摯に向き合い治療をする姿に感銘を受けました。その時に、自分も外科医として患者さんの人生に貢献していきたいという気持ちが強く生まれます。以上が、私が医療を志す理由です。

【荒糲ひかり】

私は今回、米軍の病院船は世界で最も大きいマーシー号を視察して、海洋国日本にどれほど病院船が必要なのかがよくわかりました。主に二つの視点から、病院船の必要性を考えました。

第一に、病院船の設備がとても充実しているという点です。一度に千人以上も収容できる広さ、ベッドや担架の多さには大変驚きました。また、薬剤師を乗船させれば被災地で安全に薬の使用ができること、船内には高度な医療機器も備わっていることなども大きな魅力だと感じました。このような設備を整えた病院船が被災地に行くことができれば、被災者の方はとても安心できると思います。

第二に、日本は海洋国であり、世界の中でも特に被害が多発する国であるという点です。被災した際、陸路での復興支援は困難を極めます。また、物資を届けることができて、特に薬は、専門家の指導下でないと安全に使用できません。実際に東日本大震災の時、このような理由で多量の薬が廃棄されています。それを解決できるのが病院船です。船に各分野の専門家、そして多くの物資を乗せて被災地に届けることができれば、どれだけ多くの生命が救えるのでしょうか。

私はマーシー号という本物の病院船を視察して、病院船の大きな可能性を目の当たりにしました。最先端の機器、そして多くの専門家を運ぶことができるのは病院船だけです。今の日本には病院船が欠かせないと、私は強く感じました。

《志望動機》

私が医療を志すのは医師という仕事に魅力を感じたからです。現代、多くの職業がコンピュータ化されていますが、医師はこの先ずっと残る職業だと私は考えます。人と心から向き合うことができるのは人間だけだと思うからです。また、以前母が入院した時、私は母の担当医の先生に沢山の勇気と笑顔をもらいました。だから私は多くの人に幸せをあげられる医師になりたいと思いました。

【初見喜樹】

私は、日本に病院船をつくるべきだと思います。日本の安全保障上重要だからです。

東日本大震災では、事前の想定・対策の不足により多大な被害が発生しました。自衛隊は災害派遣を実施し、当時頻繁に飛来した露中の戦闘機に主に対応を行っていました。災害時にこそ国防に隙を見せてはいけけないのは当然です。日本は地震大国ですから、災害時、

いかに被害を防ぐか、早く復興するかが安全保障上重要なのは明らかです。そして、病院船は総合病院を機能不全に陥りがちな陸路ではなく、海路で目的地に運べるので海洋国家日本に最適だと言えます。

日本国の欠点は憲法・法律を筆頭として災害・戦争等の有事に対する準備が不十分なところです。有事に対応できない国家など話になりません。日本を少しでも国民の財産と生命を守れる国にするために病院船を造ることは絶対に必要なのです。

《志望動機》

私は歴史が好きで、それに関する本を読んで多くの戦争を知り、人命を救い、社会に貢献したいと思った。私は命を大切にされて当然だと思っていたが、戦争に於いて人命はただの消耗品であった。それにも関わらず、私の命が大切にされているのは何故か、それは国家や社会・家族に守られ育てられているからだった。だから私は少しでも社会に貢献し、人命を救いたいのので医者を目指している。

【東田桃果】

私は世界最大の病院船を見て、多くの医療スタッフを乗せられる大きさや病院と同じくらいの設備の良さがあったことに驚いた。病院船は、常に医療スタッフがいてと思っていたが、災害などで必要となった人数を乗せるという流れであった。また、病院のように長期入院はさせない。止血などの応急処置をしてから病院に運び、手術をする。そうしたことで一人でも多くの命を助けられることを知った。日本には大きな病院船はない。そのことから、マーシー号を参考にして、より大きな病院船を造ることは良いと考えた。医療機器は寄付してもらえるので、金銭面では少しでも軽くなるだろうし、なにより人民が、海の上でも救援できることにより安心できるものが増えるからだ。日本は地震が多い国である。いつ東日本大震災のようなものが起こるかわからない。対策できるものはしたほうがよいだろう。だから、病院船を造ることは必要だ。

《志望動機》

看護師の母から話を聞き、医療に興味を持ったのがきっかけである。何よりも患者のことを第一に考えて行動することが看護師として大切な心がまえだということを母から聞き、誰かのためになる仕事をしたい私は、医療の道を志したいと強く思った。様々な医療現場や患者についての経験や知識を得ることで、私の理想とする患者を第一に考えた医療を実現できると考えている。

【千葉星奈】

今回、アメリカの病院船マーシーを見学して、多くのことを学びました。最初マーシーを見た時はとても大きい船だなと思いました。中は処置を行うところや手術室が多くあり、災害時でも多くの人を処置できるようになっていました。他には ER の練習用設備があり、病院船のため、日頃の訓練が行えるようになっているのだと思いました。船内の通路の脇

には多くの担架があり、災害時に備えているとわかりました。船内には階段が少なく、通路はスロープとなっていて担架に乗せた患者を運び入れるために、しっかりと考えられているのだと思いました。

しかし、船内を見て疑問がひとつありました。処置室や ICU、手術前の事前準備エリアなど、壁や扉の仕切りがなく、清潔な衛生状態をどのように保っているのかが気になりました。カーテンなどの仕切りができるものはありましたが、それだけでは大丈夫なのかと思いました。最後に、病院船マーシーを見学して、今の日本には病院船が必要だと思いました。病院船は災害時に使用されるだけではなく、各国を周り、医療技術を伝えたり、発展途上国の学校を建てたりなど、多くのことを行なっていました。日本にも病院船があると、日本の災害時に役立つだけでなく、日本の最先端の医療技術も世界中に伝えることができると思います。

《志望動機》

私は、小さい頃から家族や先生、地域の人々などの多くの人に支えられてきました。そのため、将来は人の役に立つ仕事に就きたいと考えるようになりました。その後、東日本大震災など様々な災害が発生した際、数多くの傷病者に迅速に対応している医師や看護師の姿を見て、命を助け、人の心を支えるのは医療職者だと思いました。将来は、国境なき医師団など海外でも自分の力を発揮し活躍できる看護師を目指し、毎日勉強に励んでいます。

【和田凜々子】

日本は病院船を持つべきだと思う。

日本は今まで、災害時の救助のアプローチが陸と空からだった。なぜ海からはないのだろうか。日本は島国であると同時に山がたくさんある。災害時には、土砂崩れなどにより交通が遮断され、又狭い日本、各地に平面で広いスペースのある場所は、限られてしまう。まして都会は、高層建物と人口密集地。

そこで、海上からの救援もできれば、今まで以上の貢献ができるのではないだろうかと思う。船は研修医の育成の役割も果たす。災害が起きていないときは、日本各地の病院を回り、数日間、研修医の学校にする。研修医の知識を増やし、経験を積むことで、日本全体の医者技術の底上げを目指す。

今こそ、これまでの地震や台風に学び、二度と同じことを繰り返さない対策をする時が来た。助けられる命を確実に助け、助からないとみていた命も助けられる日本でありたい。

私は医者を目指して勉強し、夢を叶えて、人を救いたい。最前線で災害に立ち向かいたい。日本全体で、いや、国境を越えた世界全体で人を救いたい。

《志望動機》

私は将来、医師として海外で働きたい。志した一番のきっかけは、「風に立つライオン」という小説を読んだことだ。そこには想像もできないような悲惨な現実が描かれていた。この本を読んでから、私は主人公のように戦争・紛争などで被害を受けている子どもたちや、

医療体制が充分でない地域の人々を支援したいと思うようになった。今は、国境なき医師団に参加して、その後中東やアフリカの病院で働きたいと考えている。

【村上マクシミリアン】

今回のマーシー号見学には、戦後初の世界最大級の病院船の日本への来航ということで、将来医学の道を志す身として興味が湧き、参加しました。応募しても自分が選考に受かる確率は低いと思っていたので、通ったとの通達が来た時は本当に嬉しかったです。

まず、船内の見学については、驚きの連続でした。ベッド千床、手術室 12 室、さらに遠隔手術ロボットなど、自分の住んでいる弘前市の大学病院を優に凌ぐ規模と設備です。しかも見学できたのはその中の一部ですから、その大きさに驚嘆してしまいます。さすが世界最大級、アメリカの国力の凄さを感じた気がしました。

また、砂田先生の話にも学ぶところが多くありました。四方を海に囲まれ、本土から離れた離島も多く持った日本には、確かに病院船があつてしかるべきであると思います。日本は自然災害が多発し、東日本大震災などでは道路が寸断され、陸上での物資、人員の輸送が滞ったという過去の教訓を鑑みても海上からの大がかりな支援ができるのは非常に心強いでしょう。日本にも、病院船はきっと必要なのだと思います。

最後に、今回、こんな貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。世界の広さ、自分の知見の狭さを知る良い機会になりました。これからたくさんのことを学び、より多くの人が幸せな日常を送るのを助けられるよう、精進していきたいと思います。

《志望動機》

私は小さい頃に喘息や花粉症、アレルギーに悩まされてきました。そんな私をかかりつけの医師が親身に対応して下さり、症状が軽快していきました。幼いながら、医師という職業に憧れを抱くようになりました。高校入学後、医師志望を確たるものとしてきましたが、日本医療の国際標準化の遅れを知りました。英語を話せる私とその遅れを取り戻すべく努力し、日本医療のさらなる深化をもたらす一助になりたいと考えています。

【菅野大輝】

今回のマージ号見学でとても素晴らしい経験をさせてもらい、自分の将来の事のために強く活かせるものになったと思います。

今回のマーシー号見学は正直なところ説明が英語であり、とても早く終わってしまったのであまり良くは分かりませんでした。ですが見学が終わったあとみんなの質問に丁寧に答えていただいたおかげでなんとなくではありますがマーシー号について知ることが出来ました。そして今後のために自分には何が足りなく何が必要なのかをととてもよく分かりました。そして、自分の夢である看護師により一層の関心と興味を持ち、この仕事をしてみたいという気持ちが心の底から湧いてきました。最後に、日本に医療船は必要だと考えます。日本は地震大国であり沢山の災害が起こります。そんな緊急事態の時に陸からそして海か

ら援助を行えたらとても助かるでしょう。東日本大震災のときも医療船があったとしたらとても活躍しもっと多くの人を救っていたことでしょう。そして、今後この事を考えているのは僕達です。より多くの人を救えるように今から頑張っていきたいです。

今回は貴重な体験をありがとうございました。

《志望動機》

中学生時代に母が看護師になるために学校に通い、努力している姿を間近で見っていたのと同じ時期に、中学校で「国境なき医師団」の人の公演があり「看護」に興味を持った。世界中の内紛が絶えない国、医療や薬が不十分な国で、本来助かるはずなのに命を落としてしまう人（特に子供）を救いたいと思ったから。

【柏木夏海】

私はマーシー号を見て、その大きさにびっくりしました。船内にはたくさんの手術室があり、それぞれの分野の専門の医師がいて、まるで総合病院の中を歩いているような気がしました。私は今回の見学と、先生の話聞いて日本にも病院船があるべきだと思いました。私がそう思う主な理由は、日本は島国であり、離島がたくさんあるからです。離島に住んでいる人は、精密な検査や手術が必要になれば長い時間をかけて本土の病院まで行きます。もし、病院船が離島をまわってその場で検査や治療をすることが可能になれば、定期的に健診を受けられるようになり、もっと多くの命を助けられるようになると思います。私は、将来日本だけでなく外国でも医療を学びたいです。そして、日本の病院船で離島の人々の役に立ちたいです。

《志望動機》

私は小学校時代に種子島に山村留学をしました。島では医療が乏しく、船で鹿児島まで通院する人がいることを知りました。また、小学 1 年の時に東日本大震災があり、私の住む那珂市は震度 6 強を記録しました。父は小児科開業医で、余震や停電断水が続く中で地震発生から 100 時間地域の方々のために昼夜診療を続け、私達家族もそれを手伝いました。これらの経験から私は地域医療や救急災害医療を担う医師になりたいと考えています。

【和田七華】

私は日本に病院船は必要であると考えます。日本では地震がよく発生する。先日公表された「防災科学技術研究所」の資料によれば、今後三十年間に西日本の太平洋側で震度六弱以上の地震が発生する確率がとても高い。そのような大地震が発生すれば、陸上の医療機関のほとんどが被害を受けてしまう可能性がある。陸地での医療活動が困難になったとき、「海からのアプローチ」が病院船はとても役に立つだろう。病院船専用の医師団を乗せることが検討されているため、災害時に医療体制を整えやすいと考えられる。また、病院が少ない地域で災害が起こったときも、病院船があれば十分な治療を行うことができる。マーシーのように設備が整っていれば、あらゆる場面で活躍できて、多くの人

を救うことができると思う。

自然災害の多い日本において、今までの救助方法だけでなく、新しく病院船を取り入れることが必要であると強く感じた。